

## 発展型総合事業A：「国際秩序の転換期における日本の秩序形成戦略 — 台頭する中国と日米欧の新たな協調 —」

《成果①》  
新たな知見



公益財団法人日本国際問題研究所  
The Japan Institute of International Affairs

### 1. 研究会の成果

**中国研究会**では、習近平の権力集中が進み、2022年の第20回党大会の準備が進められていることを確認した。また、2020年半ばにコロナウイルスの流行を抑え込むことはできたものの、政治・経済・安全保障・国民統合など、様々な側面で厳しい課題を抱えていること、特に米中関係は深刻な状況であり、内政についても、党政関係をはじめとして、必ずしも成果が十分上がっていない問題も多くあることが指摘された。

**米国研究会**では、「トランプ現象」が今後の米国政治に及ぼしうる影響を分析した。また、中国の台頭とパワーバランスの変化を受けて、「ルールに基づくリベラルな国際秩序」を守るため、米国がグローバルリーダーシップの新たなあり方を模索していることを分析した。新型コロナや人種差別問題に揺れるアメリカ社会の現状と政治への影響、QUAD（日米豪印）協力など米国の外交政策の広がりへの分析にも努めた。

**欧州研究会**では、オンライン開催の利点を生かして欧州の最前線の有識者を研究会に招聘するという新たな試みを行い、欧州復興基金、欧州における対中脅威認識の高まりとインド太平洋シフト、中東欧地域の権威主義化と中国・EU関係などについて、検討を重ねた。また、米中覇権競争のもとで、各国の政策には温度差があるものの、欧州全体でインド太平洋への政策的関与の深化がみられることが確認された。

国内最高峰の布陣で、地に足をつけた質の高い研究を提供

《成果②》  
知的ネットワーク  
の構築

## 発展型総合事業A：「国際秩序の転換期における日本の秩序形成戦略 — 台頭する中国と日米欧の新たな協調 —」



公益財団法人日本国際問題研究所  
The Japan Institute of International Affairs

### 2. 世界トップ級の有識者を招聘して議論を展開（第2回東京グローバルダイアログ）

- ミアシャイマー教授（シカゴ大学）とマクマスター元安全保障担当大統領補佐官が激論
- 米国二大トップシンクタンク（CSIS、ブルッキングズ研究所）所長の参加
- モゲリーニ前EU安全保障上級代表、英独仏著名シンクタンクトップクラスの参加
- 中国の著名研究者（時殷弘中国人民大学教授、賈慶国北京大学教授など）も登壇
- 第1回東京グローバルダイアログに招いたヘインズ氏が、バイデン政権で国家情報長官に任命



### 3. 国外のシンクタンクへの積極的なインプット

- 政策過程に関与する国外シンクタンクとの定期協議を開催
- 日本の主張をカウンターパートを通じて、間接的に海外政府にインプット
- 日本のトップレベル有識者と海外シンクタンクのネットワーク機会を提供

#### 主要カウンターパート：

- ◆ 中国国際問題研究院
- ◆ 中国現代国際関係研究院
- ◆ 台湾・国策研究院
- ◆ 台湾政治大学国際関係研究所
- ◆ 英国・王立国際問題研究所
- ◆ ポーランド国際問題研究所
- ◆ ヘリテージ財団など

グローバルな知的ネットワークを活用し、刺激的な議論を東京から世界に発信

## 発展型総合事業A：「国際秩序の転換期における日本の秩序形成戦略 －台頭する中国と日米欧の新たな協調－」

《成果③》  
タイムリーな発信



公益財団法人日本国際問題研究所  
The Japan Institute of International Affairs

### 4. 重要な時事問題について、専門家による解説と日本の見方の国際発信

#### ウェビナー開催

- ・「**アメリカ大統領選**」（2020年10月21日・29日）。久保文明東大教授／国問研上席客員研究員、ブルース・ストークス氏らが大統領選の動向を分析する連続ウェビナーを開催。
- ・「**ブレグジットと日英関係の未来**」（2021年1月25日）。遠藤乾北大教授／国問研客員研究員、アナンド・メノン（キングス・カレッジ教授）らが、ブレグジットのグローバルな含意を議論した。
- ・「**国家安全維持法後香港の『治』と『乱』**」（2021年1月27日）。香港大学の閻小駿副教授、高原明生東大教授／国問